

企画展「坪田譲治と大正・昭和の文豪たち」 を開催します

岡山市出身でわが国の児童文学に新しい分野を拓いた、岡山市名誉市民の坪田譲治氏の優れた業績を称え、岡山市が創設した坪田譲治文学賞の発表時期にあわせて、坪田譲治の遺族から寄贈されて岡山市立中央図書館が所蔵している資料を紹介する標記の企画展を開催します。

1 日 時

令和8年1月6日(火)～2月15日(日) 開館時間 10時～18時(木曜日は11時～19時)
休館日 平日の月曜日(祝日の1月12日は開館します)

2 場 所

岡山市立中央図書館 2階 視聴覚ホール前の展示コーナー(北区二日市町)

3 内 容

坪田譲治(明治 23 年～昭和57年)は、岡山近郊の農村で過ごした少年時代の体験をもとに数々の小説や童話を発表し、とくに児童文学の分野で顕著な業績を残しました。

しかし子どもたちを主題とする彼の文学は未踏の分野で、一般社会が評価するには大正期から昭和戦前期までの長い期間を要しました。いっぽう文壇には早くからその真価を認めて暖かく支えた仲間の作家がありました。そこで坪田譲治の前に名声を確立し、生涯にわたり友情を続けた下記の文学者の資料を展示し、近い世代の文豪たちとの関わりから坪田文学を紹介します。

佐藤春夫(明治25年～昭和39年。詩人・小説家・評論家。「田園の憂鬱」など。文化勲章受章)

堀口大学(明治25年～昭和56年。詩人。「月下の一群」「人間の歌」など。文化勲章受章)

尾崎士郎(明治 31 年～昭和39年。小説家。「人生劇場」「篝火」など。文化功労者)

川端康成(明治 32 年～昭和47年。小説家。「伊豆の踊子」など。文化勲章。ノーベル文学賞)

4 関連行事

岡山市立図書館デジタルアーカイブ活用講座「岡山を愛した坪田譲治の人生とことば」

日時 令和8年1月31日(土曜日) 14時～16時

場所 当館2階 視聴覚ホール(定員60人。電話、メール、または来館で申込みが必要です)

講師 山根知子先生(ノートルダム清心女子大学教授)

【問い合わせ先】

岡山市立中央図書館 飯島・杉野

直通086-223-3373

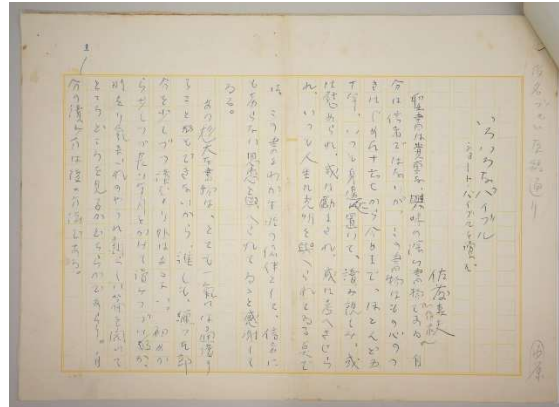
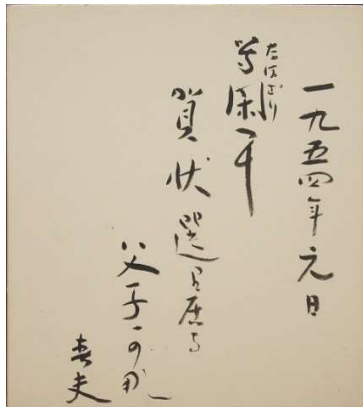
おもな展示品(全体では当館所蔵品から、図書、書、原稿、写真、書簡など約30点を出品予定)



(←) 坪田譲治

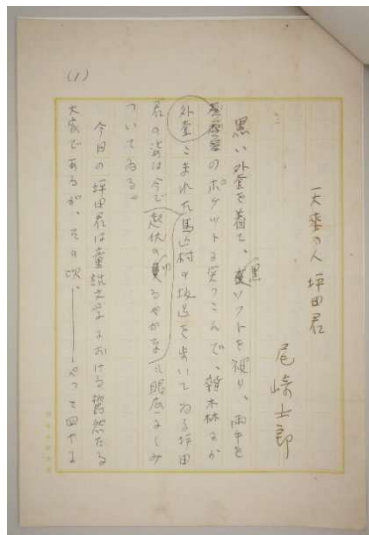
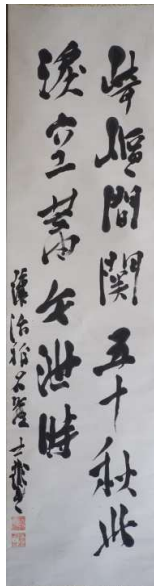
『子供の四季』(昭和13年、新潮社)

長い不遇時代を通り抜けた坪田譲治が、ようやく不動の名声
を確立した、戦前期の代表作の初版本です。



(←) 佐藤春夫

色紙「等閑に賀状
選り居る父子かな」
原稿「いろいろなバ
イブル」



(←) 尾崎士郎

書(七言二行詩)
原稿「天来の人
坪田君」

(✓) 川端康成

坪田譲治への書簡

あまり知られていませんが、
川端康成は坪田譲治が児童
文学雑誌『赤い鳥』に投稿し
ていた大正期から真価を認
め、励ましてきました。しかし
この晩年の書簡(林檎を贈ら
れた御礼)では「身辺寂寥」
と、淋しさを述べています。

